

大学と損害保険 ②

～大学教職員の基礎知識としての《保険のはなし》～

有限会社国大協サービス 事業部次長 藤井昌雄

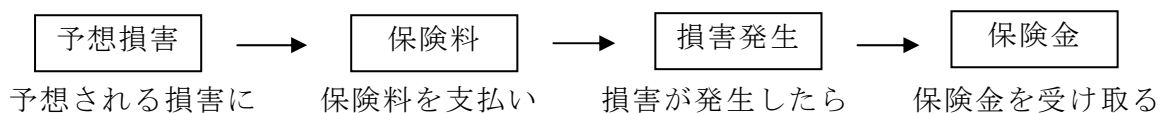
保険の基本的考え方

保険とは？

前回の連載第1回エピローグでご紹介したように、買ってきた亀がちょうど1万年目の寿命で死んでしまうかもしれない、それに備えるのが保険です。いやいや亀の年齢なら科学的に測定することができるはず、なんて野暮なことは言わず、保険とは、思いがけない損害に備える手段とご理解いただければと思います。

これを少し定義的に言えば、「同種のリスクを負担している加入者が統計学的な基礎によって算出された一定の拠出（保険料）を行うことによって、偶然な事故による損失に対し、その程度に応じてお金（保険金）を受け取ることができるという経済制度」となります。（注1）

つまり、もっとシンプルに表現すれば、以下のとおりです。



保険の種類

それでは、予想される損害にはどんな種類があるのでしょうか？

大切な人が千の風になってしまう損害、火災や自然災害で財産が失われてしまう損害、事故を起こして被害者に賠償しなくてはならない損害、事故に遭ってケガをして入院や通院しなければならない損害、等々いろいろなものが考えられます。

わが国では、①生命保険と②損害保険という大きな二つに保険の枠組みを分け、法律、行政、経済のシステムが体系化されています。（一般に生命保険を第1分野、損害保険を第2分野としています。）

ところが、「両者の中間的なものとして「人についての生死以外の事故」を主な保険事故とし一定額を支払う（損害てん補ではない）保険である、傷害保険、疾病保険や介護保険が出現し、生命保険、損害保険いずれにも属さない保険として、「第三分野の保険」と位置付けられて」きました。（注2）

（注3）

法律上の分類	商品例	保険事故発生の対象	保険金支払方法による分類
生命保険	生命保険	人	定額保険
第三分野の保険	傷害保険 疾病（医療）保険 介護保険		
損害保険	火災保険 自動車保険	特定の物	損害保険
	賠償責任保険	財産全体	

大学がもし100軒の村だったら…

それでは、先ほどの保険の定義に従って、100軒の大学が生活する村の火災の損害に備える保険を考えてみましょう。

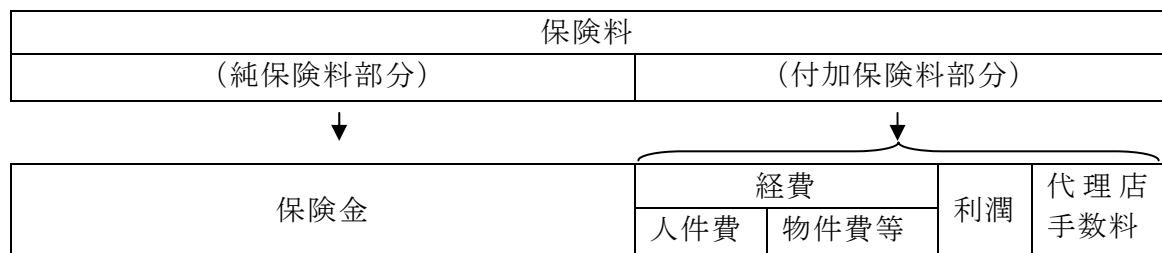
まず最初に保険料をいくら集めるかが問題となります。そこで登場するのが、「大数の法則」です。「ある独立的に起こる事象について、それが大量に観察されればある事象の発生する確率が一定値に近づき、「大量に観察することによってその発生率を全体として予測できる」という法則です。(注4)

仮に、火災の発生率が年間1%、火災1軒の平均損害額は5000万円だとすると、この村では、年間5000万円の保険金の支払いが予想されるので、各軒から50万円の保険料を集めることになります。

しかし、「ちょっと待ってください」。保険料を集め、管理し、火災が発生した時に保険金を支払う事務を誰がやるのでしょうか。「あたしだよ!」と言ってボランティアでやってくれる人がいればいいですが、規模が大きくなればそうは行きません。そこで、専門の会社を作り保険業務をやってもらうことになります。

保険料の構成要素

実際の保険料の構成は次のようになっています。



そして、保険金の支払いに当てられる純保険料部分の合計額は、支払われる保険金総額と一緒になければなりません。「収支相当の原則」

また、保険は公共性の高い商品ですから、A社のX保険の保険料は、誰に対しても同じ額でなければなりません。「一物一価」一般の商品のように、特定のお客さんにだけ利潤部分を削って値引きを行ったり、代理店が自らの手数料を削って保険料を安くすることは、保険業法が禁じる特別利益の提供になります。

各保険会社では、金融庁の認可を受けた様々な商品構成、計算方式を持っており、それらをいかに組み合わせるかによって同様の補償内容でも社によって保険料に違いが出てきます。保険を手配する時には、補償内容の仕様を示し、見積もり合わせや入札が行われます。

(注1) 玉村勝彦『損害保険の知識』(日本経済新聞社) 18頁。

(注2) 高木秀卓/中西宏紀元編『損害保険読本』(東洋経済新報社) 20頁。

(注3) 高木秀卓/中西宏紀元編『損害保険読本』(東洋経済新報社) 22頁表2-3から抜粋。

(注4) 社団法人日本損害保険協会ホームページ用語辞典。

なお、大数の法則の例としてサイコロの各目が出る回数は振る回数が多くなればなるほど1/6(16.6%)に近づくとされる。我が家で子どもに1000回振らせた結果は以下のとおり。

	1の目	2の目	3の目	4の目	5の目	6の目
60回目	18.3%	21.7%	8.3%	15.0%	21.7%	15.0%
600回目	18.3%	15.8%	13.3%	18.5%	19.3%	14.8%
1000回目	18.9%	17.2%	14.4%	16.0%	18.8%	14.9%

実際には、サイコロの重心のズレ等により各目が出る回数は均一にならないものと思われる。

次回予告
クイズ

「火災保険の目的」とは何でしょう？